

グループで課題解決

結城一高でPA授業



課題についてグループで話し合う生徒たち＝結城市結城

設定された課題をグループで解決していく教育プログラム「プロジェクト・アドベンチャー(PA)」を取り入れた授業が7日、結城市結城の県立結城一高(新井康芳校長)で行われた。1年生が参加しゲームに取り組みながら、クラスメートとの絆を強めた。

PAは米国発祥の教育プログラム。人間関係の醸成を目指す。集団による課題解決体験を通じて、コミュニケーション能力の向上や1年生を対象にPAの授業を取り入れている。

1年生参加、絆強める

この日は総合的な学習の時間を活用して、1年生131人が参加。国立赤城青少年交流の家(前橋市)の外部指導員を講師にクラスごとに授業が進められた。生徒たちはプログラムごとに大小さまざまなグループに分かれ、難易度が上がっていく課題に協力して挑戦。互いに声を掛け合い、楽しみながら課題に取り組んでいた。

参加した目黒大輔さん(15)は「楽しかった。難しいものもあったが、みんなで取り組むことでクラスの仲が深まったと思う」と話した。

同校では7、12月にもPAの授業を展開。7月は校外の施設でさらに難易度の高い挑戦をする予定だ。同青少年交流の家に出向経験があり、PAの外部講師でもある棚谷克彦教諭は「お互いの価値を認め、自分と他人は同じように大切な存在だということを分かち合えるのがPAの醍醐味。体験不足の生徒が多い中で、さまざまな気付きが生まれる」と話した。

(平野有紀)